

建設業の農業分野への進出

企業の異分野への進出を積極的に支援する企業

静岡県富士市の株式会社建設システム(従業員185名、資本金4,000万円)は、土木施工管理ソフトメーカーである。

同社は、公共事業の削減や資材価格の高騰等によって、同社の取引先である建設会社の経営が厳しい中、今後の建設業の在り方を考えて、農業への参入を決断した。2009年に農業生産法人を設立し、富士宮市で1ヘクタールの農地を確保し、野菜の生産を始めた。

同社では、社員に新規事業案を募集し、その提案を踏まえ、新分野への進出を決定した。2008年には、三重県の農家から土作りの指導を受け、山梨県の農業生産法人から農業経営ノウハウと農作業を学び、2009年には農業ビジネスに関する大学講座を受講するなど、農業参入にあたっては十分な準備を積み重ねてきた。2009年末から実験的に栽培した野菜を近隣の農家に提供したところ、大変好評であり、2010年1月から地元のスーパーへ出荷を開始した。食の安全に関心が高い消費者の有機・低農薬野菜へのニーズに応えるため、土壌消毒剤、除草剤、化学肥料を使用しない有機農業を目指しており、将来は日本農林規格に基づく有機JASの認定を受けようとしている。

同社は、国土交通省委託事業「建設業と異分野のコラボレーション促進支援事業」において、建設事業者の農業参入支援企業に登録しており、今後は、自社の経験を活かして、コンサルティングや農業の計画管理ソフトの開発等により、建設業の農業分野への進出を支援していく予定である。



有機野菜の収穫風景